

様式 1

点検評価表（外郭団体）

I 団体の概要

（令和4年4月1日現在）

団体名	公益財団法人静岡県舞台芸術センター		
所在地	静岡市駿河区平沢100番1	設立年月日	平成7年7月21日
代表者	理事長 鈴木 壽美子	県所管課	スポーツ・文化観光部文化政策課
設立に係る根拠法令等	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律		
団体の沿革	平成7年7月21日 財団法人静岡県舞台芸術センター設立 平成25年4月 公益財団法人に移行		
運営する施設	静岡芸術劇場（専用使用）、静岡県舞台芸術公園（指定管理）		
団体ホームページ	<a href="https://SPAC.or.jp/">https://SPAC.or.jp/</a>		

出資者	出資額（千円）	比率（%）
静岡県	1,280,434	100.0
基本財産（資本金）計	1,280,434	100.0

役職員の状況（人）			
常勤役員	1	常勤職員	10
うち県OB	-	うち県OB	-
うち県派遣	-	うち県派遣	5
非常勤役員	25	非常勤職員	-
役員計	26	職員計	10

II 点検評価（団体の必要性）

1 団体の設立目的（定款）

演劇、舞踊等の舞台芸術に関し、その創造活動等を行うことにより、静岡県の芸術文化の振興を図り、もって香り高い文化の創出に寄与する。

2 団体が果たすべき使命・役割

演劇、舞踊等の舞台芸術に関し、その創造活動等を行うことにより、静岡県の芸術文化の振興を図り、香り高い文化の創出に寄与する。

3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会経済環境の変化や新たな県民ニーズ	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策の徹底を図りつつ、鑑賞者数の上限設定などの制限下にあっても事業効果を最大限に発揮できるよう、感染状況の変化に応じた柔軟な対応が求められている。 ・ウィズコロナ・アフターコロナ時代を見据えた中長期的な取組の検討が重要となっている。
行政施策と団体活動との関係（役割分担）	・静岡県舞台芸術振興構想（平成6年3月）に基づき、舞台芸術の振興を図るため、舞台芸術の教育・普及、舞台芸術の制作と公演、国内外の舞台芸術公演の企画・開催など、舞台芸術活動を一貫して推進する組織として設置された団体である。 ・中高生への無料鑑賞機会の提供事業や人材育成・地域の舞台芸術活動の支援など、極めて公益性の高い事業に取り組む団体であり、県の文化振興施策を遂行する機関の性格を有している。
民間企業や他の団体との関係（役割分担）	・劇場施設を専用使用する公立の劇団であり、国内外からの招聘作品の公演や中高生に無料で舞台芸術の鑑賞機会を提供する事業、人材育成事業、活動支援事業など公益性の高い事業を実施している。

#### 4 事業概要

(単位：千円)

区分	事業名	事業概要	R3 決算	R4 予算
県補助	創造と公演事業	舞台芸術作品の創造と公演を行うとともに、国内外からの招聘作品の公演を実施する。	404,212	342,142
県補助	人材育成事業	県内中高生に無料で鑑賞機会を提供する「中高生舞台芸術鑑賞事業」や、公演実施のためのけいこを積むことで演劇の魅力を体感してもらうシアタースクールなどを実施する。	29,829	61,376
県補助	活動支援事業	県内を中心に演劇やダンス等の団体が発表を行うSPAC県民月間の開催や人材派遣・技術支援を行う。	3,805	2,500
県補助	ふじのくにせかい演劇祭開催事業	世界の優れた作品を招聘し、静岡芸術劇場や静岡県舞台芸術公園等を会場として、静岡から世界に向けて情報発信する国際的な舞台芸術の祭典を開催する。	70,794	51,450
県委託	子どもが文化と出会う機会創出事業	「中高生舞台芸術鑑賞事業」のうち、県内出張公演及び県内の学校等で行う演劇・ダンスのワークショップ、部活動指導等の学校訪問プログラム等を実施する。	15,698	19,500
県委託	演劇アカデミー運営事業	演劇技術の習得に高い意欲のある高校生を校外活動として集め、専門的な演劇教育を行うことで、将来の「演劇の都」を担う人材育成等を進める。	16,929	20,000
県委託	舞台芸術公園管理事業	創造と公演の活動拠点である舞台芸術公園を県民が気軽に公演を訪れて演劇の魅力に触れることが出来るよう指定管理者として適切に管理する。	55,510	55,200
県補助	管理・運営事業	団体の運営に必要な管理・運営事業を実施する。	52,850	63,000
合 計			649,627	615,168

#### 5 事業成果指標

指標の名称 (単位)	目標 (上段) 及び実績 (下段)				目標値 (年度)
	R1	R2	R3	評価	
鑑賞者数 (人)	42,000	42,000	45,000	C	45,000
	43,251	21,727	23,006		(R2~)
鑑賞者率 (%)	84	84	84	C	84
	70	46	52		(毎年度)
中高生舞台芸術鑑賞事業鑑賞者数 (人)	21,000	21,000	21,000	C	21,000
	10,232	15,160	6,213		(R3)

※評価 … A：目標達成 B：目標未達成 C：目標未達成 (乖離大)

## 6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
△	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公演数や提供座席数が制限されることなどにより、目標値の達成には至っていない。</p> <p>・特に中高生舞台芸術鑑賞事業については、日々変化する感染状況により、生徒の感染を危惧する学校側からの鑑賞のキャンセルが多く出た。</p> <p>・制限下にあっても、これまでの活動の成果を広く県民に還元するため、世界レベルの舞台芸術作品の公演を行うほか、舞台芸術の振興を図るため、無料で鑑賞機会を提供する中高生舞台芸術鑑賞事業や高校生に演劇指導を行うシアタースクールといった公益性の高い事業に重点的に取り組んでいる。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症という状況下でも座席数を減らす等の制限、工夫の下で、可能な限りの活動を行うとともに、「子どもが文化と出会う機会創出事業」や「演劇アカデミー運営業務」など、県からの委託を受けた公益事業を着実に推進した。</p>	△	<p>・SPACは、例年「ふじのくににぎせかい演劇祭」や海外公演等により静岡から世界に向け舞台芸術を発信する一方、中高生を対象とした招待公演や「リーディング・カフェ」等の教育・普及事業や人材育成事業により、舞台芸術に関心を持つ県民の裾野の拡大や人材育成に努めており、県の文化振興に大きく寄与している。</p> <p>・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、「ふじのくににぎせかい演劇祭」では3年ぶりに海外招聘を実現し、SPACとしては海外2カ国（ロシア・フランス）での招聘公演を成功させるなど、国内外で「演劇の都」静岡の魅力を発信している。</p> <p>・中高生舞台芸術鑑賞事業の鑑賞者数は、感染症拡大に伴う学校側のキャンセルが相次ぎ目標未達成となったものの、子ども達にトップレベルの舞台芸術に触れる機会を提供することで、豊かな感性を育むことに大きく貢献している。より多くの子ども達が芸術に親しみ、県の芸術文化振興の裾野を拡大するため、本年度から新たに、親子向け講座、特別な支援が必要な子ども達向け作品の創作・上演に取り組む。</p>

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

## 7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<p>・県舞台芸術振興構想に基づき、舞台芸術の振興を図るために設立された団体であり、舞台芸術の教育・普及、制作と公演、国内外の舞台芸術公演の企画・開催等、これまで舞台芸術に係る諸活動を着実に推進している。</p> <p>・県が新たに策定した「県文化振興基本計画」や「演劇の都構想」においても、SPACの事業や、県とSPACとの連携が重点的に位置付けられるなど、計画や構想の実現に向けては大きな役割を担うことになる。</p> <p>・また、一般の公演とは異なり直接の収益にはつながらない「中高生舞台芸術鑑賞事業」等を自主財源を活用して積極的に行うなど、公益性を追求した取組を着実に推進するほか、「演劇アカデミー運営業務」をはじめ、「演劇の魅力普及のための親子向け講座（おやこ小学校）」や「特別な支援が必要な子ども向け作品の上演（インクルーシブシアター）」等、専門人材が対応することでその事業効果の向上に繋がっており、団体の果たす役割は極めて重要である。</p>	○	<p>・設立から現在まで、質の高い作品の創造と公演を行い、県民に対して優れた舞台芸術作品の鑑賞機会を提供しており、東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムにおいても、国内外に向けた静岡の魅力発信において中心的な役割を果たした。</p> <p>・また、中高生舞台芸術鑑賞事業等の人材育成事業は、参加した学校から生徒の感性を高める非常に良い機会だと高く評価されており、「地域自立のための人づくり・学校づくり実践委員会」においても一層の事業拡大を求められる等、教育分野における期待も高まっている。</p> <p>・これらの状況を踏まえ、県では、SPACを中核とした「演劇の都」静岡の推進に向け、令和3年に「演劇の都」構想を策定し、構想の実現に向けた取組をSPACとの連携により進めている。本構想の内容を取り込んだ第5期ふじのくに文化振興基本計画（R4～）においても、SPACは引き続き重要な役割を担うものと考えられる。</p>

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

## 8 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係る意見を除く)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
SPACが果たす役割の明確化	○ ・舞台芸術の創作・公演活動を行い、県民に質の高い作品の鑑賞機会を提供するとともに、人材育成事業や県民の舞台芸術活動支援事業を実施する。	○ 世界に通用する質の高い作品の鑑賞機会を県民に提供するとともに、舞台芸術の創造を通じて、音楽、文学、美術などの様々な芸術文化活動に刺激を与え、本県の芸術文化の発展を牽引している。
グランシップや舞台芸術公園を活かすための方策を検討	○ ・静岡芸術劇場では、「中高生舞台芸術鑑賞事業」や「SPACシアタースクール」の実施等、県民が演劇に触れ楽しむ機会を創出する事業を行っている。 ・また、舞台芸術公園では、舞台芸術作品の創造活動の他、「SPAC県民月間」による県民の舞台芸術活動の支援や高校生を対象とした1年制演劇学校「演劇アカデミー」の場とするなど、幅広い県民の利用促進をしている。	○ 静岡芸術劇場、舞台芸術公園ともに、舞台芸術の創造と公演、人材育成、活動支援の事業に活用されている。 舞台芸術公園においては、SNS等を活用した積極的な情報発信を行っているほか、民間企業との連携により演劇と食文化と日本平の景観を組み合わせた周遊ツアーやイベントを開催するなど、観光資源として演劇を活用する取組を進めており、今後も演劇の拠点としての活用が進むことが期待される。

※○：対応済 △：対応中 ×：未対応

### Ⅲ 点検評価（経営の健全性）

#### 1 財務状況

（単位：千円）

区分	R1 決算	R2 決算	R3 決算	評価	備考（特別な要因）	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	▲20,483	▲27,540	8,565	A	
	経常損益 (a+b-e-f)	▲20,483	▲27,540	8,565	A	
	公益目的事業会計	▲24,938	▲32,843	1,767	/	
	収益事業等会計	320	264	640	/	
	法人会計	4,135	5,039	6,158	/	
	剰余金	103,183	75,642	84,205	A	

※評価 … A：プラス B：特別な要因によるマイナス C：マイナス

区分	R1 決算	R2 決算	R3 決算	主な増減理由等	R4 予算	
資産の状況	資産	1,649,239	1,610,252	1,627,542		-
	流動資産	221,267	184,515	235,668	年度末公演に伴う増加、短期借入金 の増加	-
	固定資産	1,427,972	1,425,737	1,391,874		-
	負債	152,009	143,643	182,903		-
	流動負債	147,359	139,416	178,698	年度末公演に伴う未払金増加、短 期借入金の増加	-
	固定負債	4,650	4,227	4,205		-
	正味財産/純資産	1,497,230	1,466,609	1,444,638		-
	基本財産/資本金	1,394,047	1,390,967	1,360,433	基本財産を財源とした中高生舞台 芸術鑑賞事業積立金の減少	-
	剰余金等	103,183	75,642	84,205		-
	運用財産	-	-	-		-
収支の状況	事業収益 (a)	605,406	531,393	646,633	公演再開による出演料や助成金 収入の増加	609,160
	うち県支出額 (県支出額/事業収益)	334,800 (55.3%)	337,300 (63.5%)	323,137 (50.%)		317,700 (52.2%)
	事業外収益 (b)	6,893	6,216	11,559	中高生舞台芸術鑑賞事業積立金 の取崩	6,008
	うち基本財産運用益	5,848	5,811	5,809		5,808
	特別収益 (c)	-	-	-		-
	うち基本金取崩額	-	-	-		-
	収入計 (d=a+b+c)	612,299	537,609	658,192		615,168
	事業費用 (e)	632,782	565,149	649,627	公演数の増	615,168
	うち人件費 (人件費/事業費用)	42,380 (6.7%)	41,761 (7.4%)	39,429 (6.1%)		46,828 (7.6%)
	事業外費用 (f)	-	-	-		-
	特別損失 (g)	-	-	-		-
	支出計 (h=e+f+g)	632,782	565,149	649,627		615,168
収支差 (d-h)	▲20,483	▲27,540	8,565		-	

## 2 経営改善の取組の実施状況と評価

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも、感染拡大防止対策の徹底を図りながら、国庫補助金や関係団体からの助成金など外部資金の獲得に努め、予定していた公演や事業の多くを計画どおり実施するなど、文化振興施策を着実に推進した。

## 3 赤字の要因（前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載）

—

## 4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
△	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも、予定していた公演や事業の多くを可能な限り計画どおりに実施するため、国庫補助金や関係団体からの助成金など外部資金の獲得に努め、経営の健全化を図りながら事業を推進した。</li> <li>この中で、通常の公演とは異なり、収入が見込めない中高生舞台芸術鑑賞事業については、演目の内容や経費の見直しを行い、事業費の抑制を図る一方で、中学校、高校からの事業実施要望も多いことから、中高生舞台芸術鑑賞事業積立金を充当し事業を行い、中高生の鑑賞機会の確保に努めた。</li> <li>また、県内での公演とともに、海外での評価の高まりを受け現地に招聘され公演を行うことなどにより収入の確保、向上を図り、法人の経営基盤の維持・強化につなげている。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度は、予定していた公演を実施できたことにより、前年と比べ国庫補助金・受託金収入・負担金収入・事業収益が増加したことに加え、中高生舞台芸術鑑賞積立金の取崩により単年度収支は黒字となった。</li> <li>一方で、令和3年度収入全体に占める県支出金の割合は5割を占めることから、中長期的な事業展開を見据え、財団の経営基盤の強化に引き続き取り組むことが必要である。</li> </ul>

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

## 5 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係るもの)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
コスト意識を持った事業展開	△ ・公演事業費等の抑制を図りつつ、国庫補助や助成金等の外部資金の獲得を積極的に進めている。	△ 事業費の抑制を図るとともに、収入確保に努めており、継続的に取り組むことが期待される。

※○：対応済 △：対応中 ×：未対応

#### IV 改善に向けた今後の方針

##### 1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針（団体記載）	団体の方針に対する意見等（県所管課記載）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術の創造と公演活動を通じて、県民に広く継続的に鑑賞機会を提供するため、引き続き、公演事業費等の抑制を図りつつ、国庫補助金や助成金等の外部資金の獲得に積極的に取り組みながら、活動の充実を図っていく。</li> <li>・公益性の高い中高生舞台芸術鑑賞事業については、収入は見込めないが、事業の評価は高く学校側からの要望も多くことから、「中高生舞台芸術鑑賞事業積立金」の活用等により充実を図る。</li> <li>・また、新たに県から委託を受け、県内ホールでの出張公演や学校訪問を内容とする「子どもが文化と出会う機会創出事業」などにも取り組むなど、公益性の高い事業を積極的に推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界レベルの舞台芸術作品の鑑賞機会を提供するとともに、中高生舞台芸術鑑賞事業や、学校等へ出向いてのアウトリーチ活動を積極的に実施することで、県民が舞台芸術に親しむ機会を提供している。</li> <li>・中高生舞台芸術鑑賞事業は収益が見込めない事業であるため、財源確保策について長期的な視点での検討が必要であるものの、子どもが芸術に触れる機会として学校関係者からの評価も高く、県として支援を継続する。</li> <li>・県としては、S P A Cと連携していつでもどこでも多彩で魅力的な文化に出会うことができる「ふじのくに芸術回廊」の実現を目指すとともに、健全な財団運営に向けた取組を促していく。</li> </ul>

##### 2 今年度の改善の取組

団体の取組（団体記載）	団体の取組に対する意見等（県所管課記載）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により縮小を余儀なくされた諸事業を、本年度は、感染防止対策の徹底を図りつつ、公演事業費等の抑制を図り、国庫補助金や助成金等の外部資金の獲得にも積極的に取り組みながら、静岡県の芸術文化の振興に着実につながるよう取り組む。</li> <li>・具体的には、今年度は海外からの招聘とともに演目数を増やして「ふじのくにせせかい演劇祭」を実施し鑑賞者数の増加につながるよう取り組む。</li> <li>・さらに、中高生舞台芸術鑑賞事業については、学校側の利便性を高めつつ、鑑賞者の拡大を図るため、これまでの秋冬時期の実施に加え、新たに春季にも開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営において県への依存が大きいという議論を踏まえ、新たな国庫補助金など外部資金の獲得等により財源の拡大に努め、経営体質を強化していく必要があると考える。</li> <li>・今後は、県外・海外への招聘公演や県内買取公演を強化し、新規助成金の獲得や出演料収入等を増加させることによる、安定した財政基盤の確立に向けた取組を県としても促していく。</li> <li>・また、S P A CのP Rや公演情報の効果的な情報発信による認知度向上と入場料収益・寄附金収入増加に向け、県とS P A Cが相互に連携して取り組んでいく。</li> </ul>

## V 組織体制及び県の関与

### 1 役職員数及び県支出額等

(単位：人、千円)

区分	R1	R2	R3	R4	備考(増減理由等)
常勤役員数	2	2	2	1	
うち県OB	1	1	1	-	
うち県派遣	-	-	-	-	
常勤職員数	8	8	9	10	
うち県OB	-	-	-	-	
うち県派遣	4	4	4	5	
県支出額	334,800	337,300	323,137	317,700	
補助金	245,000	245,000	235,000	223,000	法人補助金の減少
委託金	89,800	92,300	88,137	94,700	新規委託事業による委託料の増加
その他	-	-	-	-	
県からの借入金	-	-	-	-	
県が債務保証等を付した債務残高	-	-	-	-	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額(当該年度は予算額)、借入金・債務残高は期末残高

### 2 点検評価(団体記載)

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	常勤職員10人の内訳は、事務局長1人、芸術局長1人、総務課長1人、総務・経理・管理の各係長及び契約職員3人、臨時職員1名であり、適正な人員体制としている。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	-	常勤役員に県職員は就任していない(4月1日現在)。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	○	県からの派遣職員5人については、県の舞台芸術振興施策の推進のための必要最低限の関与に留めている。

※ 評価欄 … ○：基準を満たしている △：基準を満たしていないが合理的理由がある ×：基準を満たしていない

### 3 点検評価(県所管課記載)

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	○	本団体は、県の文化政策の主要な柱である舞台芸術の振興のために、舞台芸術の創造と公演、人材の育成、活動の支援などを一貫して推進する組織として設立され、団体が実施する事業は、県に代替して施策を推進するものであることから県職員を派遣しており、必要な関与と考えている。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	人材育成や地域の舞台芸術活動支援など、公共性の高い事業の実施、県の施策を遂行する代替的な性格があるという性質上、法人の自主財源だけでは自立は困難であるため、今後も県の助成が必要と考えている。しかし、今後の経営を安定させるためにも公演内容の見直しや経費節減を図ることで効率のよい事業推進に努めるとともに、会員制度の普及、国等の助成金確保など自主財源の拡大により経営体質の強化を行うべきと考えている。

※ 評価欄 … ○：基準を満たしている △：基準を満たしていないが合理的理由がある ×：基準を満たしていない

## VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

### 1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	○	○	舞台芸術公園の指定管理業務について、外部評価委員会による評価を受けている。	令和3年8月23日に開催された指定管理者評価委員会において、令和2年度の指定管理者実施業務について、5段階中4.4「よく実施した」と評価された。
利用者アンケート	○	○	上演後に鑑賞者アンケートを実施し、演目への感想、SPACへの意見・要望などを聞いている。	・中高生舞台芸術鑑賞事業に参加した生徒からは、「人生で初めて演劇を鑑賞し、臨場感に驚いた。」や「またプライベートで見に行きたい。」などという意見が多くあった。 ・また一般の方からも「静岡にある演劇の灯を消さぬよう頑張ってください。」という意見があるなど、活動の充実を望む声が多い。
			舞台芸術公園の利用者アンケートを実施し、施設の管理、改善に役立てている。	公園の利用者から「自然豊かで富士山もよく見える良いロケーションであるので、来訪者拡大に努めてほしい。」との意見があるなど、公園のPR強化を望む声が多い。
利用者等意見交換会	○	-	・俳優や音響・照明スタッフ等による公演後のメッセージや、見送り等により、演劇を身近に感じ、より深く作品を鑑賞してもらえる取組を行っている。	このメッセージにより、生徒に感動が深まったり、より印象的な体験になったことが見受けられた。
その他 ( )	-	-		

○：実施している／公表している    -：実施していない／公表していない

### 2 事業やサービスの見直し例

<p>・秋冬時期に開催していた中高生舞台芸術鑑賞事業では、学校側の利便性向上及び鑑賞者拡大を図るため、新たに春季にも開催する。</p> <p>・様々な方に演劇に触れてもらう機会を創出するため、地元団体、個人の協力により、劇場に足を運ぶ機会の少ない方々を招待する「あしながおじさんプロジェクト」の対象を、ひとり親世帯だけでなく生活保護受給世帯に拡大した。また令和4年度は、新たに特別な支援が必要な子ども向け作品の上演などを実施する。</p> <p>・SPACの活動拠点である舞台芸術公園について、県担当課を含めた利活用検討会議を組織し、施設開放イベントの充実や広報の強化について協議・実施し、施設の管理・改善につなげている。</p>
---

